

平成30年度 保護者懇談会 報告	
日 時	【1回目】平成30年 8月29日(水) 午後6時から7時35分まで 【2回目】平成30年10月28日(日) 午前9時30分から11時まで
場 所	久慈中学校
出席人数	(1) 保護者等 【1回目】13人 【2回目】7人 計20人 (2) 事務局 【1回目】教育部長 【2回目】教育部長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後) 久慈小 175人(6) 坂本小 302人(12) 東小沢小 18(3) 久慈中 173人(6) (20年後) 久慈小 132人(6) 坂本小 228人(8) 東小沢小 14(3) 久慈中 131人(6) (4) 意見交換
【1回目 (4) 意見交換】	
<p>(意見) あまりにも人数が少なく、学級が減っている。自分の時と比べてすごく少ないと感じている。子どもが、まだ小さいので、何が心配かと聞かれると浮かんでこない。</p> <p>(意見) 中学校の再編のイメージを持っていたが、人数を見ると小学校の再編もあり得るのかと思う。</p> <p>(事務局) 児童生徒数は小学校も中学校も減っているので、どちらも対象と考えている。</p> <p>(意見) 今ある学校に合併か、新しい場所に作るかで通学距離が変わる。 子どもが坂本小から久慈中へ進学したので、人間関係が心配だった。久慈中が自宅のすぐ近くなので、坂本中に通うことになると思うと荷物も大きく、部活動を遅くまでやったり朝練で早く行ったりするのを、送り迎えなしで通えるのか不安があった。合併になったときに、どこから自転車通学になるのか、スクールバスが出るのかなど何となく不安がある。久慈中に進学するに当たって良かったと思ったのは、人間関係を作り直すことができ、積極的になった。あのまま坂本中に行っていたら、小学校の時と変わらず、新しい人間関係の構築はできなかったと思う。クラス替えのメリットはあると思う。新しい人と出会うというのは子どもにとって良い。中学生の生活は部活動重視。坂本中には部活動がないから久慈中に通ったり、チームを組むために久慈中に行く、坂本中に行くというお子さんもたくさんいる。学校も部活動に力を入れているので、そのような部分も大切にしていけたらいいというのが親の思い。</p>	

(意見)

久慈小と坂本小は、学区が入り組んでいる。久慈小学区ではあるが久慈小が遠かった。男の子だったのでそのまま久慈小に通わせた。久慈小、坂本小、久慈中、坂本中は、それぞれ学校が近いので選べてしまう。

学級は上限の人数で、暑い中で大変だったと先生がおっしゃっていた。人数が減って空き教室があるのだから、柔軟にできないのか（学級を分けられないのか）と思う。

(事務局)

学級の人数は、国や県の基準で決まっている。国は小学1年生が35人、2年生から40人学級。茨城県では、それでは多いということで、小学2年生も35人。

担任の経験からは、35人を越えた学級では、一人ひとりのお子さんにもっと関わりたくても難しかった。

茨城県では、35人を越えたら非常勤講師を配置して2人の教員で学級を見ている。さらに、35人を越えた学級が（学年に）3学級以上ある場合は4学級として、学級の人数をならしている。学級の人数が多いと目が届きにくいことは承知しているが、国・県の基準に基づいて学級編制している。

(意見)

2クラスしかなくて寂しい。もっとたくさんの人に揉まれてほしい。

東小沢小は子どもが少ないので再編を考えたほうがよい。

直近の10年間の計画というが、もっと加速したほうがよいと思う。

(質問)

早いところでは、何年後くらいに再編になるのか。

(事務局)

これから計画を作る。いつと明言できないが、できるだけ早く作りたい。

計画ができてから一定の準備期間を経て統合となる。他市町村の例では3～5年程度かかっている。学校の名称や校則、校歌などの細かいことを決める必要があること、また、統合で子どもたちの環境が変わることになるので、円滑に統合後の学校生活になじめるように事前の交流が必要になる。そのようなことを含めての準備期間として一定の期間が必要になる。

計画を作る過程の中で、素案を作る。素案ができた時点で、皆様のご意見を伺う機会を作りたい。

(教育部長)

いろいろな意見が出てくるので確約はできないが、教育委員会としては、来年度中のできるだけ早い時期にお示ししたいと考えている。通学距離の問題などが出てくると思うが、中学であっても通学の安全はとても大事で、地域の協力をいただかないとうまくいかないし、人数の多い学校に少ない学校が統合されるとも限らない。敷地や設備の問題もある。

案ができたからお示しするので、その時は、また、おいでいただきたい。

(意見)

今回は、再編の説明で具体的なことが聞けると思ってきた。

自身は人数の多い学校の出身なので、子どもが少ない苦労は分からない。残すべき学校

なのか、統合しても分校として残すなどの方法があるのかなど考えたい。

(意見・質問)

小学校が建て替え中なので、避難所が中学校になっている。実際に小学校から避難することになると、下って上ることになるので、小学生が避難する経路などに不安がある。

久慈小の建て替え時に小中一貫などの方法もあったのではないか。

(教育部長)

日立市では小中連携教育を進めている。望ましいのは小中一貫だと思っている。物理的に同じ建物であるべきだが、地域性もあり、全部を小中一貫にするのは難しい。可能な限りで進めていきたいと思っている。

市内で中学校が避難所になっているのは、ここだけ。本来は小学校が望ましい。耐震性や実際の避難所となる体育館が崖の上にあるということもあり、中学校にした。今回の建て替えで避難所にするかどうかは、生活安全課との協議が必要だが、体育館の配置を変更しているので、避難所としても問題はない。

東日本大震災で久慈中が避難所になった際、久慈中の子どもたちの力を見せつけられた。トイレの詰まりに素手を入れて直してしまった。高齢者がトイレを利用する際は、水を汲んで流してあげていた。子どもたちが避難所を使うためのルールを作り、入口に貼り出していた。中学生に言われて大人も従っていた。秩序があり整然とした避難所だった。当時の校長先生は、「荒れた頃もあったが、ソーランに取り組むことで団結力が生まれ、積極性が出た。」とおっしゃっていた。素晴らしい伝統のある学校だと思う。

坂本中も、いじめ撲滅委員会に取り組み、子どもたちが率先していじめ問題に取り組んでいる。南部地区の学校には、それぞれ特徴がある。再編されたとしても、そのような伝統は持ち寄っていけば、さらに良い学校になる。

(意見)

久慈中のOB会があり、募金して学区内の小学校3校に寄付をしている。

再編について、もっと早く検討してほしい。

(質問)

坂本中の現在の人数は何人か。

(事務局)

現在の人数は169人、5学級。

(質問)

南部地区の学校で、目安の2学級や3学級未満の学年は何年生か。

(事務局)

坂本小は全学年が2学級以上ある。久慈小は1、4、6年生が1学級、2、3、5年生が2学級。東小沢小は複式学級があり3学級。久慈中は1年生から順に3、2、3学級。坂本中は同じく1、2、2学級。

(質問・意見)

再編計画の形について。「〇〇校と△△校を統合」というように学校名が出るのか、地区ごとに「〇校を△校にする」というように数で表現するのか。

子どもや人口が減っているのと同じように、先生も減っている。非常勤の先生が担任しているところもある。非常勤ではなく正規の先生が担任となるように配慮してほしい。

(事務局)

他の地域でも、不安の声が多く寄せられているのは、見通しが立たないということなので、どこの学校がどうなるかということを示すべきだと思っている。

まず、全体像をお示ししたいと考えていて、個別具体的な学校がどうなるかを示した上で、直近の10年間で、どこの学校がどうなるかをお示しすることで、保護者の皆さんの不安に答えることができると思う。

しかし、地域によっては、そのようにお示しできない場合もあるかもしれない。目安としているのはあくまでも児童生徒数の推計なので、確定できない段階で具体的に示した方がいいのかどうかの議論もある。地域によっては、「3校を2校に」というような表し方になるかもしれない。目指すのは、より具体的な表現である。

担任のことについては、担任をしているのは教諭と講師に分かれる。採用試験に合格した人が教諭。講師の中でも力のある人はいる。勤務形態では、教諭は常勤（フルタイム）、講師は常勤と非常勤がある。非常勤の担任はいない。勤務時間の関係から、非常勤では子どもたちの学校生活をカバーできない。担任をしているのは常勤の講師のことだと思う。先生の数が少ないのは、おっしゃる通りで、産休や療休の補充が足りていない。学校では、担任がないということはあってはならないので、教務主任などの担任外の教員が担任することになる。講師が少ないのは、教員免許を持ちながらも講師登録する人が少ないからで、この状況は全国的な傾向である。教員採用試験の倍率が2倍を下回る県もある。市としても、少しでも改善できるよう働きかけをしている。若い人たちに教員の仕事のすばらしさを伝えていきたい。子どもの成長を感じるのが教員の醍醐味だと思う。

(意見)

地域の行事が減っている。子ども会がなくなり、子ども同士の校外での活動や地域との交流が減っている。

再編で人が増えるとPTAなどの保護者の負担が減るので、地域との関りも増えるのではないか。

久慈中ソーランなどの学校ごとの伝統は残してほしいし、地域の方は期待している。地域に残りたいと思えるような学校づくりをしてほしい。そのようなものを求めて、他から人が来れば日立も盛り上がる。

人口減少は仕方ないかもしれないが、少しでも食い止められるように、学校、子育て支援、働く場所など日立市全体で計画して、協力していければいいと思う。

(意見)

久慈小の1年生は1学級しかない。このまま6年間持ち上がることになる。団結力が生まれるなど良い面もあると思うが、いじめなどがあつたら、ずっと同じ顔触れでは心配。良い面も悪い面もある。統合で人が増えたら活性化され、友達との関係も作れていいと思う。

久慈中と坂本中が合併になるとか、バスケ部がないから久慈中に行くとか、坂本中がプレハブ校舎のままで新校舎の目途が立たないので、そのうち久慈中と合併するなどのうわさがある。早めに知らせてほしい。東海村やひたちなかはマンモス校で日立とは規模が違いすぎる。

(意見)

小学校の再編の可能性は考えていなかった。

統合になった場合、兄弟で中学校が違ってしまったら、両方の学校行事に行かなければならず、家庭には負担になる。

(教育部長)

統合というと、どちらかへの吸収合併をイメージする方が多いと思う。歴史のある学校だから無くしては困るというようなことを言われるが、そういうことではなく、子どものための環境整備であるということ。例えば、久慈小が残るとしても久慈小という名称にするかは協議するべきこと。「再編」なので、改めて作り直すという捉え方をしてほしい。いろいろなうわさが出るのは、「うちの学校が無くなる」という意識からだと思う。

(事務局)

再編の時期によっては、兄弟で学校が変わる場合も想定される。保護者の皆様と十分に協議しなければならないと思っている。

(教育部長)

再編の案があると期待を持っておいでになったということだが、仮に、久慈中と坂本中が統合になるとして、要望したいことはあるか。

(意見)

いつ発表されて、どちらが無くなるのか、当面、卒業するまで今の学校で過ごせるのか、次の1年生から同じ学校になるというような説明かと思っていた。制服も変わるし、ジャージなどの購入品のこともある。中学校を統合する案ができて、それについての意見を求められるかと思っていた。懇談会のスケジュールを見ると久慈中は最後なので、坂本中での話し合いの結果を持って、久慈中での説明なのかと深読みしていた。

(教育部長)

決してそのようなことではない。日程の関係でこうなった。

(事務局)

統合で兄弟がバラバラになってしまうとのご心配について。

統合が決まって、1年生だけが統合校に入学することになると、一方の学校は2、3年生だけになり、次の年には3年生だけになってしまう。3年生だけで卒業式はいかがだろう。部活動もできなくなる。そういう面では、統合時期を決めて、それまでの間、両校での交流事業（体育祭や文化祭の合同実施など）を行うなど、円滑に統合後の生活が送れるように準備期間を設けて、今年からというときに全学年が統合すると、兄弟がバラバラになることもない。そのような方法もあることをお伝えしたい。

(意見)

中学校の部活動は、まだ、かろうじて久慈中として成立しているが、そろそろ怪しい。成立していない学校もあり、新人戦などは合同チームで参加する学校もある。少年団も複数の小学校が集まって活動している。すでにそのような状態にあるので、再編の動きになったのかと思って参加した。

(教育部長)

戸惑われたのかもしれないが、これまでは、行政が決めてから説明会を開くようなやり方だった。学校に関しては、お子さんのことなので、保護者の皆さんの意見はしっかり聞かないといけない。行政が作ると数合わせになりがちだが、そうではなく、作る前に、皆さんとしっかりお話がしたかった。

(意見)

日立市の小学校は徒歩で通える範囲、中学校は大きい道路や線路で分けるという決まりがあったと思うが、子どもが減ってきて小学校自体が多いのかもしれない。

初めに分校のことに触れたが、自身の出身である台原中は、いまだに泉丘中の分校といわれている。台原団地が無くなった時点で台原中を無くして元に戻せばいいと。台原中は4つの小学校から進学するが、台原中が無くなったら、それぞれの小学校が元々の中学校に通えばいいといわれている。

(教育部長)

市内では、小学校が分かれて中学に進学するところが多い。分かれることで新しい環境になって、良い面もあると思う。

(意見)

自身は栃木県出身。小中学校のグループが決まっていて、小学校が分かれて中学へ行くことはなく、代り映えしなかった。日立の特色なのだったと思った。

以上

【2回目 (4) 意見交換】

(質問)

このまま人が減っていった場合、統合の候補に挙がる所はどこか。

(教育部長)

今のところは具体的な候補はない。数だけでは考えていない。

子どもたちの環境で考えると、小中一貫教育なども検討している。小学校から中学校に進学すると、授業ごとに先生が変わるなど、皆さんの中にも小学校とは違うことに戸惑った経験があると思う。幼稚園や保育園から小学校、小学校から中学校の接続が円滑にできるように考えている。

一定規模の学校を作ろうとするときに、小さいところを多いところに機械的に統合する訳ではない。校地面積や立地条件なども考慮しながら検討している。数だけではないが、競うことも学校教育の中では必要な部分でもあるので、規模は確保したい。

(質問)

統合の何年くらい前から保護者に知らせてくれるのか。急に知らされても親子とも戸惑う。

(教育部長)

おおむね10年間に急いで取り組まなければならないところを、計画でお示しする。計

画が出てから、実際の統合には、最短でも2～3年はかかる。学校名や通学の問題や地域の調整など、取り組むことはたくさんある。校舎の整備の必要があればもっと時間がかかる。完了するまでには4～5年はかかるのではないかと思う。

（ 質問 ）

例えば、4年後に統合となったら、統合前の子どもたちのケアはどのように考えているのか。

（ 教育部長 ）

運動会の合同実施や共同での学習など、学校同士での交流を積極的に行っていきたい。

（ 意見 ）

小学校は義務教育の中で最も長い6年間。幼稚園から少し大きな社会に触れる。勉強もさることながら、精神が育てられる大事な期間である。

私は小規模校に賛成している。忙しそうなどデメリットに挙がっているが、勉強やスポーツ以外にも係活動や個性を発揮できる場面があり、教師や友達から賞賛を受ける機会が増えて自信につながると思う。

存続させるには、どのような形があるか考えてほしい。不登校の子どもたちを受け入れるなど、可能性を広げながら再編を検討してほしい。

（ 教育部長 ）

学校全体で少人数であること、卒業するまで人間関係や役割が決まってしまうことがデメリットとして挙げられている。そのようなことで、個性や個人個人の伸びを阻んでしまうこともある。それをデメリットとして挙げている。

規模の大きい学校では、学級の人数に幅がある。40人いっぱいでは学級運営が大変。学級の人数を抑える制度が必要だろう。

1学級の最大のデメリットは人間関係の固定化。仮に、いじめがあったら逃げ場がない。学校運営面からは、学年の行事を全て1人でこなさなければならない。一人ひとりの子どもたちに目が向きにくくなる。学級の人数が大事なのだと思う。配慮していきたい。

中里小・中学校については、学区に関係なく市内のどこからでも通える小規模特認校という制度を活用している。中里の子どもたちを町中に連れてくることになると、子どもたちにも保護者にも負担が大きい。不登校の子どもを通わせるために作ったわけではないがいじめっ子もガキ大将もいないような土地柄なので、大きな集団に適応できない子どもたちが安心して通える環境ではある。英語教育やコミュニケーション科が特徴の学校である。

（ 意見 ）

中高一貫校の教員をしていた。小規模校の教員の大変さもわかるが、生徒との親密具合などもいいし、1人でやることは大変だが自分の裁量でできることも多い。他学年との協力関係もある。

保護者の友達から、久慈地区では地元の方と新しい方ではなじむことに難しさがあると聞いている。近い地域の中で人数の少ない方を選択させてもらえたら、人数もばらけるかもしれない。

（ 意見 ）

学校の再編が後になればなるほど、取り返しがつかない状況になると思う。それぞれの

規模にメリットがあると思うが、問題の本質は、日立市に戻ってこれるように魅力を発信していくことだ。故郷だからというだけでは難しい。子どもを育てる環境としても、東京の方が選択肢も多い。

何を最終的なゴールとしているのか、あやふやなのではないかと思う。子どもたちのどのような力を、どのように伸ばしていくのかが、保護者の期待しているところだと思う。保護者にもいろいろな考え方があると思う。学校ごとの特色を出して（勉強や部活など）、子どもに合った学校を選べたらいい。

（ 教育部長 ）

日立は全国と比べて、自己有用感や自己肯定感が高い。一人ひとりを認めようと学校ごとの切り口で取り組んできた成果だと思う。職業少年団の取り組みも一定の成果が出ている。少年団をきっかけに興味を持ち、その分野に進学する子どもも出てきている。

学校として成り立つだけの需要があるのであれば、小さい学校もあるのかなと感じた。

（ 質問 ）

目指す学校規模での先生の配置で、教員の過重労働を改善することができる体制なのか。

（ 事務局 ）

先生の仕事が多く、子どもたち一人ひとりに向き合う時間がなくなっていることが問題になっている。代表的なことは部活動など。

子どもの数でクラスの数が決まり、教員の数が決まる。ある程度の大きい学校になると担任外の先生が配置され、少し余裕が出てくる。子どもの絶対数が多くなればトラブルも起きる。体制に余裕があると、担任のほかに対応できる先生がいる。

少ない学校では校長、教頭も授業ができるようになってきているので、職員室にほとんど先生がいないのではないかと。学年1～2学級では余裕がない。

また、年齢構成では若い先生と50代中盤以上の先生が多く、30代後半から40代の先生が少ない。中学校の担任は半分くらいが20代。若い先生が増えると、出産などで休むことが増えるが、その間の補充が不足している状況。そこに教務主任などが入るが、余裕がないとそれもできない。

メリット・デメリットあるが、再編は総合的に考えなければならない。

（ 教育部長 ）

学年4～5クラスあると学校運営に余裕が出ると聞く。

中学校では、教科によっては先生が1人しかいない。相談しながら、授業を組み立てることもできない。

数だけではないといいつつも、小さい学校を残すことは考えていなかった。義務教育の後、高校へ進学する。その後は、就職や大学受験など競うことにさらされることになる。その後は、1人でやらなければならない。もう少し考えてみたい。

（ 意見 ）

日立市は学童保育が少ない。子どもを預ける所がないと、子どもを連れて帰って来られない。預けやすい東海村に出てしまう人が増える。

（ 教育部長 ）

児童クラブについての不安は多くいただいている。十分に担保していかなければならな

いと考えている。

預かり時間など、実情に合っていないことが多くある。子どもの安全を考えれば、学校の中で預かるのが一番だ。統合となれば、児童クラブ室の確保は最重要項目と捉えている。

(質問)

東小沢小学校に児童クラブを設置することは考えていないのか。

(意見)

日立の児童クラブの対象学年を拡大してほしい。近所の付き合いも薄くなっている中で高学年なら1人でいても大丈夫とはならない。小学生のうちには学校の児童クラブで見てもらえれば、保護者も安心。兄弟がバラバラに過ごしているのは心配だ。

(教育部長)

実現できるように頑張りたい。

東海村は子育て支援が充実していると聞くので、調べてみると、制度としては日立市の方が充実している。きっかけは「絆（東海村総合福祉センター）」だろうと思うが、一つ良いものがあると他のものも良くなってしまう。

(意見)

南部図書館ができて、とても助かっている。

(意見)

子どもセンターは遠くて行きにくい。日立市は南北に長いので、市内に3か所は欲しい。水戸から転居してきた人などから、無料で子育て支援を受けられる回数が少ないと言われる。市報も、欲しい情報を探すのが大変だと言われる。引っ越してきた人に冊子を渡しても読まない。必要な情報だけをもらえたらいい。

(教育部長)

分野別の情報紙はある。配り方が悪いのかもしれない。

他の場所で尋ねたところ、携帯に届けば見るとのことだった。

(意見)

教育のボランティアスタッフ募集の記事が市報にあった。良い試みだと思う。教員でなくても、市民の中で、教育に関心を持ち、協力できる人がたくさんいると思う。子どもの教育に市民が参加できる仕組みがあったらいい。

(教育部長)

お願いできたら、とてもありがたい。

(質問)

学校を選ぶことはできるのか。現状を教えてください。

(教育部長)

現状では、選べるのは中里小・中学校だけである。

(事務局)

現状は学区制なので選べない。家庭の事情で例外的に認めている事例はある。

(質問)

なぜ選べないのか。自分の子どもが少人数に向いてるとというのが保護者は分かる。中学校は部活で選べるのに、小学校は選べない。

(事務局)

課題もあるということ。人気の有無で人数が偏り、小規模になり課題となる。中学校では部活動ができなくなる。できる範囲で運用している。

(意見)

野球部の顧問が経験のない先生だと、部活動の指導にも偏りが出るし、先生の配置も考えてほしい。

(教育部長)

経験のないスポーツを指導することは先生にとっても負担。とはいえ、顧問がいないと試合もできない。地域人材を活用する制度ができてきた。子どもたちのためにも活用を考えたい。

(事務局)

最近の新聞で、教員へのアンケートの記事があった。部活動を負担に感じるかどうかは半々。国でも、外部指導者を積極的に活用できるように検討している。先生が楽をできるということではなく、子どもに目を向ける時間が作れるということ。教員の配置は、学校の課題の解決のために必要な人材を優先して配置している。部活動は優先順位としては高くない。

(意見)

南部地区は、子育て支援の施設に連れて行きたいと思っても、遠くて連れていけない。

(意見)

既存の施設を有効に使えたらいい。

(教育部長)

建物については地域偏差がある。子育てセンターは、立地できる場所がない。交流センターを使いたくても混んでいて確保できない。

例えば、学校再編後の廃校した学校を活用することも考えられる。

(意見)

学校の空き教室で、高齢者と交流したりできればいい。

(意見)

東小沢小は、三世代の交流が盛ん。こんなに地域と密着できる学校はなく魅力的だ。

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。

